

平成 23 年度

病害虫発生予報第 3 号

平成 23 年 6 月 23 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	8
4. 予察項目の見方	15
5. 今月のトピックス（ウメ輪紋ウイルス(PPV)について）	16
6. 気象のデータ	17
7. おしらせ	19

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類の発生量はやや多と予想されますので、圃場周辺の除草に努めてください。葉いもちの発生量はやや多、穂いもちの発生時期はやや遅、発生量はやや多と予想されます。早期発見と早期防除を心がけてください。紋枯病の発生時期は平年並、発生量はやや少、セジロウンカの発生時期および発生量は平年並と予想されます。白葉枯病、ツマグロヨコバイの発生量は平年並と予想されます。イネクロカメムシの発生量はやや少と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（中晩柑）の発生量はやや多と予想されます。そうか病は、特に温州みかんの常発園や幼木園等での発生に注意してください。かいよう病（中晩柑）は、連続した降雨により発生が助長されますので、雨の合間に薬剤防除を実施してください。黒点病、かいよう病（温州みかん）、チャノキイロアザミウマの発生量は平年並、ミカンハダニの発生量はやや少と予想されます。

ナシでは、黒星病、ハダニ類の発生量は平年並と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量は平年並と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は少と予想されます。

3) 茶

チャでは、炭疽病、クワシロカイガラムシ、チャノコカクモンハマキの発生量はやや多、クワシロカイガラムシの発生時期は平年並と予想されます。炭疽病は、新葉の開葉初期の防除が必要です。クワシロカイガラムシは、第 2 世代幼虫の防除適期は 7 月第 5 半旬～第 6 半旬ごろと予想されます。チャノコカクモンハマキは、5 月に防除できなかった圃場で注意が必要です。カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少、チャノホソガの発生量は少と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病、ハダニ類の発生量は平年並と予想されます。うどんこ病の発生量はやや少と予想されます。

ネギでは、ネギコガの発生量は平年並と予想されます。

2. 作物別の状況

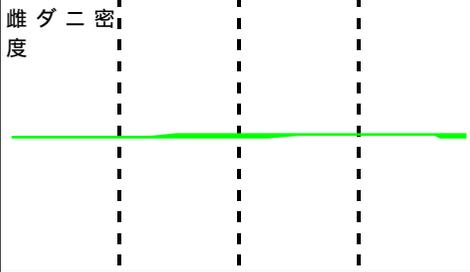
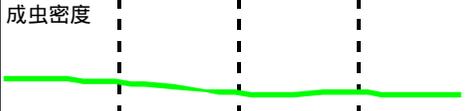
作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	-	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第5号(6月22日発表)。 2) 圃場を見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。 3) 補植用置き苗は発生源となるので、速やかに取り除いてください。
	穂いもち	やや遅	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 葉いもちが上位葉に多く発生すると、穂いもちへ移行しやすくなります。 2) 薬剤防除は穂ばらみ期から穂揃い期に予防的に行ってください。
	紋枯病	平年並	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼穂形成期頃(穂肥時期)から発生が目立つようになります。 2) 水面に近い茎から感染しますが、薬剤防除によって病斑の上位葉への進展を阻止してください。
	白葉枯病	-	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 浸水や冠水、台風によって感染や発病が助長されます。 2) 「みえのゆめ」は弱い品種なので注意してください。
	斑点米カメムシ類	-	やや多	小	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 圃場周辺のイネ科雑草で発生しますので、除草に努め、発生密度を低く抑えてください。 2) 本田への侵入を防ぐため、除草作業は出穂10日前までに実施してください。 3) 本田粒剤で防除する場合は、出穂期に散布してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		6月	7月			
		平年比			平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネクロカメムシ	-	やや少	小	普通					1) 今の時期はイネの葉先が白く縮れる症状が現れます。 2) 近年、被害で減収する圃場が増えていますので、発生が多い圃場では注意が必要です。 3) 日中は株元に潜んでいるので、夕方や曇天の日に薬剤散布を行うと効果的です。
	ツマグロヨコバイ	-	平年並	中	低					1) 当面、防除が必要な密度には達しないと思われます。
	セジロウンカ	平年並	平年並	小	低					1) 例年、被害の発生はごく局所的であるため、多飛来が認められる場合は、病害虫防除技術情報で臨時発表します。
カンキツ	そうか病	-	やや多	小	普通					1) 常発園、幼木園、高接ぎ更新園の温州みかんでは、発生に注意してください。 2) 果実への感染は梅雨末期頃までといわれています。
	黒点病	-	平年並	小	普通					1) 樹勢の衰弱により、枯枝が増加している樹では、それらの除去等耕種的防除を実施してください。 2) 薬剤散布は前回の散布後に積算降水量が200~300mmに達した時を目安に実施してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						6月	7月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	かいよう病	-	温州 平年並	温州 小	温州 普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第4号(6月15日発表)。 2) 降雨があると急速に感染が広がるので、雨の合間に防除してください。 3) 発病枝葉、果実は、見つけ次第剪除し処分してください。 4) 幼木や高接樹ではミカンハモグリガの被害部に発病しやすいので、ミカンハモグリガの防除を実施してください。 5) 中晩柑類では、梅雨期頃から10月中下旬頃まで、果実への感染が起こります。
	ミカンハダニ	-	やや少	中	普通	ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 1葉当たりの雌成虫発生数が0.5~1.0頭程度を目安に防除してください。 2) 薬剤は葉裏にもかかるように散布してください。 3) 同一系統薬剤の連用は避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 寄生果率10%を目安に防除してください。 2) 7月になり果実肥大が進むと果頂部で加害します。 3) 圃場周辺のイヌマキ・サンゴジュ・チャ等が発生源となります。
ナシ	黒星病	-	平年並	小	普通	発病密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病果及び発病葉は除去して、圃場外に持ち出し処分してください。 2) 発病が確認される圃場では、すみやかに防除を計画してください。 3) 薬剤散布を実施するときは薬剤をていねいに散布し、同一系統薬剤の連用を避けてください。
	ハダニ類	-	平年並	中	普通	ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 1葉当たり寄生数が1~2頭で防除を実施してください。 2) 7~8月に密度が高くなります。徒長枝での発生にも注意してください。 3) 同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						6月	7月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
ブドウ	べと病	-	平年並	小	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 降雨が連続すると、病徴が急速に進展するので、葉裏に病斑を認めたら直ちに薬剤を散布してください。 2) 降雨の合間に防除を計画してください。 3) 被害葉及び被害落葉は感染源となるので圃場外に持ち出して処分してください。 4) 同一系統薬剤の連用を避けてください。
果樹共通	カメムシ類	-	少	小	低						<ul style="list-style-type: none"> 1) 局所的に密度が高まるときがあります。カキ、ナシ（無袋栽培）では、まとまった飛来を確認したら、防除を実施してください。 2) 中山間地や昨年多発した地域では、注意が必要です。
チャ	炭疽病	-	やや多	中	普通	発病		次の感染			<ul style="list-style-type: none"> 1) 一番茶の摘採が遅れたところは注意が必要です。 2) 新葉開葉初期に防除しましょう。
	カンザワハダニ	-	やや少	小	普通	ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 一番茶後に多くなるので注意が必要です。 2) 葉裏に薬液が付着するように丁寧に散布しましょう。 3) 同一系統の薬剤は、抵抗性が発達するので、年1回にしましょう。 4) 天敵を保護する薬剤を選択しましょう。
	チャノホソガ	-	少	小	低	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 新芽がないと産卵しませんので、飛来状況を見て防除しましょう。防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況が掲載されているので、参考にして下さい。
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	やや少	小	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 開葉初期に防除しましょう。 2) 二番茶以降、晴天が続くと発生が多くなります。 3) 一斉防除が効果的です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						6月	7月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
チャヤ	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	中	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 第2世代の成虫飛来ピーク日は6月第6半旬ごろ、第3世代では7月第4半旬ごろと思われます。 2) 一斉防除が効果的です。
	クワシロカイガラムシ	平年並	やや多	中	普通				第二世代幼虫孵化		<ul style="list-style-type: none"> 1) 第2世代の防除適期は7月第5半旬～第6半旬ごろと思われます。 2) 土着天敵が働いていますので、薬剤を選びましょう。
	チャノコカクモンハマキ	-	やや多	小	普通	第一世代成虫			第二世代成虫		<ul style="list-style-type: none"> 1) 5月に防除できなかった圃場では注意が必要です。 2) 天敵寄生蜂が期待できる薬剤を選択しましょう。 3) 防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺数を掲載しているので、参考にして下さい。
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 薬剤散布は、葉かき後の予防に重点をおいて行ってください。発病を認めたときは、集中的に散布して感染の拡大を防いでください。 2) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布します。
	炭疽病	-	平年並	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 病原菌の発育適温は28前後で、高温多湿条件を好みます。 2) これからの高温期にかけて、葉かき後の定期的な防除と、降雨後の防除を徹底して行うことが重要です。 3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるように畝やベンチの両側からも散布します。 4) 灌水時の水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう、丁寧に灌水を行ってください。(チューブ灌水、やさしく手灌水)

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						6月		7月			
						平年比	平年比	程度	平年比		下旬
イチゴ	ハダニ類	-	平年並	小	普通	雌ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 親株床、育苗床周辺の雑草管理、ハダニ類の好む植物を作らないなど、ハダニ類の発生しにくい環境づくりに努めます。 2) 葉かき後の定期防除時に、葉裏を中心に丁寧に薬剤を散布してください。 3) 葉かき後の残渣は圃場外に持ち出し、確実に処分してください。 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
ネギ	ネギコガ	-	平年並	小	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 幼虫が葉の内部に潜るため、潜入防止のため発生の初期から防除を行ってください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 週間天気予報（6月21日発表）によると、向こう1週間は曇りや雨の日が多い予想（+）</p> <p>2) プラストム（6月19日現在）によると、感染好適条件は6月17日から19日にかけて全県的に出現（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（6月第2週）では、置き苗での発生圃場率0.6%（全調査圃場に対する割合、5年平均0.3%）とやや多（+）、本田における発生圃場率0%（5年平均0%）と平年並に少ない傾向（±）（+）</p> <p>4) 防除員調査圃場（6月5日）では、置き苗での発生を確認（+）</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は無～平年並（概して平年並）。6月第3週頃より初発を確認（±）</p> <p>6) 一般圃場では、生育状況は葉色が濃く、軟弱徒長傾向（+）</p> <p>考察：現在の発生量は平年並の状況ですが、プラスタムによる判定結果と今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	穂いもち	やや遅	やや多	<p>要因</p> <p>1) 水稻生育予測システム（4月25日移植コシヒカリ、6月19日現在）によると予想出穂期は7月22日頃と、平年に比べ2日程度遅い見込み（発生時期±）</p> <p>2) 一般圃場では、移植時期はやや遅い状況（発生時期+）</p> <p>3) 葉いもち発生量はやや多の予想（+）</p> <p>考察：水稻の生育状況から発生時期はやや遅、葉いもちの予想発生量を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	紋枯病	平年並	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（6月17日発表）によると、気温は高い予想（+）</p> <p>2) 農業研究所作況試験田（4月25日移植コシヒカリ）では、移植50日目における葉齢の進展は平年並（発生時期±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（昨年8月）では、発病株率8.8%（平年12.9%）と少発生であり、越冬菌核量は少の予想（-）</p> <p>考察：作況試験田の生育状況から発生時期は平年並、感染源となる越冬菌核量は少ないと予想されますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	白葉枯病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 5月28日から30日にかけて、台風2号の影響により、東紀州地域では日降水量100mm以上の降雨を観測（+）</p> <p>考察：大雨に伴う冠水があったのは、県南部の一部の圃場と考えられるため、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	斑点米カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~6月第3半旬)では、誘殺数はアカヒゲホソミドリカスミカメ 24 頭(平年 20.1 頭)と平年並、アカスジカスミカメ 7 頭(平年 8.0 頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、畦畔イネ科雑草すくい取りによる斑点米カメムシ類成幼虫の発生地点率は、ホソハリカメムシで 16.3%(平年 9.4%)と多、クモヘリカメムシで 0%(平年 0.2%)と平年並に少、シラホシカメムシ類で 6.9%(平年 7.1%)と平年並、アカスジカスミカメで 46.3%(平年 16.2%)と多。同調査における成幼虫数はホソハリカメムシで 0.4 頭(平年 0.2 頭)と多、クモヘリカメムシで 0 頭(平年 0.009 頭)と平年並に少、シラホシカメムシ類で 0.09 頭(平年 0.10 頭)とやや少、アカスジカスミカメで 3.2 頭(平年 0.7 頭)と多 (+)</p> <p>考察: 巡回調査結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・4月第1半旬~6月第3半旬)では、誘殺数は水田位置 6 頭(平年 6.9 頭)とやや少、畑位置 81 頭(平年 135.9 頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率 2.5%(平年 5.5%)と少、25 株当たり成虫数 0 頭(7年平均 0.07 頭)と少ない傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、無~やや多(概して少) (-)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬~6月第3半旬)では、誘殺数は松阪市 1 頭(平年 1.8 頭)、伊賀市 0 頭(平年 0.1 頭)、紀北町 0 頭(平年 0.1 頭)、御浜町 0 頭(平年 0.3 頭)と概して平年並に少 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成虫数 0.03 頭(平年 0.08 頭)と平年並に少、同・幼虫数 0.05 頭(平年 0.2 頭)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、無~やや多(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査圃場、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	セジロウンカ	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(県内 4 か所)では、6月 18 日現在で未飛来(松阪市・平年初飛来 7月 5日) (発生時期±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし成虫数 0 頭(平年 0.01 頭)と平年並に少 (±)</p> <p>3) ウンカ飛来状況(JPP-NET)によると、九州では 6月中旬まで多飛来は無 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少ない傾向 (±)</p> <p>考察: これまでの飛来状況から発生時期は平年並、現在の飛来状況から当面は密度が大きく上昇することはないと予想されるため、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	そうか病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく(-)、気温は高い(+) 2) 県予察圃(6月中旬)では、発病葉率 69.5%(平年 52.0%)とやや多、発病果率 67.5%(平年 44.4%)と多 3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、春葉発病度は0(平年 0.3)と平年並 4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) 考察: 現状の発生はやや多と思われ、引き続き予想発生量はやや多と考</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少ない予想 2) 県予察圃(6月中旬)では、果実発病度 4.8(平年 4.9)と平年並 3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、春葉発病度 3.2(平年 0.1)と多 4) 一般圃場では、発生量は平年並 5) 着果が多いが樹勢は普通、感染源となる枯枝は平年並 考察: 県予察圃及び一般圃場の状況を重視して、現状の発生は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考</p>
	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく(-)、気温は高い(+) 2) 県予察圃における果実での初発は、6月3日(平年 6月9日)と早 3) 県予察圃(6月中旬)では、新葉発病葉率 0.2%(平年 10.6%)と少、発病果率 0.0%(平年 1.5%)と少 4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における発病葉率は温州みかんでは 0.3%(平年 0.1%)とやや多、中晩柑では 7.0%(平年 3.1%)と多 5) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) 考察: 温州みかんでは、わずかに発生が見られる圃場もありますが、現状の発生は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 2) 県予察圃(6月中旬)では、100 葉当寄生虫数は、無防除区で 10.0 頭(平年 22.6 頭)と少、防除区で 0.0 頭(平年 11.7 頭)と少 3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における寄生葉率は 2.0%(平年 8.7%)と少、寄生虫数は 0.04 頭/葉(平年 0.52 頭/葉)と少 4) 一般圃場では、発生量はやや少~並(概してやや少) 考察: 現状の発生は少と思われませんが、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月上旬)では、黄色粘着トラップ誘殺数は0.21頭/日(平年0.40頭/日)と少 (-)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、100果当たり寄生虫数は0頭(平年1.3頭、ただし5か年は0頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害果は未確認 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生は平年並と思われ、大きな増加要因もなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病葉率1.6%(平年0.7%)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 圃場によりバラツキがありますが、現状の発生は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生葉率は0%(平年1.3%。ただし、うち6か年は0%)と平年並、寄生虫数は0頭/葉(9か年平均0.1頭/葉)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生は平年並に少なく、今後の増加を考慮しても、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ブドウ	べと病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病葉率は0%(平年0.1%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生は平年並に少と思われ、大きな増加の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（御浜町：6月1日～10日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ6頭（平年427頭）と少、ツヤアオカメムシ6頭（平年82頭）と少（-）</p> <p>2) 予察灯（畑・松阪市：5月16日～6月15日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ4頭（平年429頭）と少、ツヤアオカメムシ3頭（平年85頭）と少、クサギカメムシ2頭（平年3頭）とやや少（-）</p> <p>3) フェロモントラップ（5月9日～6月8日）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地（津市白山町川口）で92頭（平年247頭）と少、中間地（津市白山町二本木）で117頭（平年458頭）と少、平坦地（松阪市嬉野川北町）で0頭（平年107頭）と少（-）</p> <p>4) 巡回調査圃場（6月第2週）では、圃場への飛来は未確認（±）</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少～やや少（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 現状の発生は少なく、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（6月17日発表）によると、平年に比べて気温は高い予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（6月第2週）では、発病葉率は0.1%（平年0.5%）と少（-）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多（+）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並と考えますが、気象条件による今後の増加を考慮して予想発生量はやや多と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（6月17日発表）によると、平年に比べ曇りや雨の日は少なく、気温は高い予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（6月中旬）では、寄生葉率4.0%（平年4.6%）と平年並、寄生頭数0.22頭/葉（平年0.27頭/葉）と平年並（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（6月第2週）では、寄生葉率は0.6%（平年5.1%）、寄生頭数は0.01頭/葉（平年0.72頭/葉）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 現状の発生は少と考えますが、気象条件による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ誘殺数（6月第2半旬～第3半旬）は、631頭（平年1722.3頭）と少（-）</p> <p>2) 巡回調査圃場（6月第2週）では、巻葉数は0.1枚/m²（平年0.7枚/m²）と少（-）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少（-）</p> <p>考察： 現状の発生は少と考えられ、大きな増加要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノミドリヒメ ヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃の吸引粘着トラップ捕殺数(5月第5半旬~6月第3半旬)は、6頭(平年9.7頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、たたき落とし虫数は0.9頭(平年1.6頭)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生は少と考えますが、気象条件による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザ ミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃の吸引粘着トラップ捕殺数(5月第5半旬~6月第3半旬)は、727頭(平年2779.2頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、たたき落とし虫数は14.7頭(平年12.8頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (±)</p> <p>考察: 現状の発生はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	平年並	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 有効積算温度による孵化最盛日予測式(アメダス観測点; 四日市、亀山、粥見の平均、6月20日計算)では、第2世代の幼虫孵化最盛日は7月25日(平年7月24日)と平年並 (発生時期±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、雄繭寄生株率は3.7%(平年17.2%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 有効積算温度による予測結果から、第2世代幼虫の発生時期は平年並と考えます。一般圃場の発生状況を重視して、現状の発生はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノコカクモン ハマキ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃のフェロモントラップ誘殺数(5月第5半旬~6月第3半旬)は、45頭(平年45.4頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、ハマキムシ類の巻葉数は0.7枚/m²(平年0.5枚/m²)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察: 現状の発生はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく(±)、気温は低くない(-)予想 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0.7%(7年平均12.4%)と平年より少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少と考えられ、大きな増加要因がないため、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく(-)、気温は低い(+) 2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0%(平年0.02%)と平年並に少 3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 考察：現在の発生量は平年並に少と考えられ、大きな増加要因がないため、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は低い(+) 2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生株率11.8%(7年平均6.8%)とやや多の傾向 3) 一般圃場では、発生量は平年並 考察：現在の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報(6月17日発表)によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は低い(+) 2) 県予察圃フェロモントラップ(5月第4半旬~6月第3半旬)では、誘殺数は136頭(平年189.1頭)とやや少(-) 3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害葉率0%(平年0.3%)と平年並に少 4) 一般圃場では、発生量は無~やや多(概して平年並) 考察：現在の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「ウメ輪紋ウイルス (PPV) について」

1 ウメ輪紋ウイルスとは

モモ、スモモなどサクラ属の植物に広く感染する重要な植物ウイルスで、これまでにヨーロッパ、アジア、北アメリカや南アメリカ等で発生しています。日本では、2009年に初めて東京都青梅市のウメで、本ウイルス（以下PPV）の感染が確認されました。その後、関東地方や関西地方の一部の生産園地や観光園地で、過去に青梅市から移動した苗や穂木が原因と考えられるPPVに感染したウメ樹が確認されています。

PPVの感染が広がると、ウメ以外にも、モモやスモモなどで重大な被害が発生する恐れがあります。このため、農林水産省が都道府県と協力して、全国で発生調査を行うとともに、感染植物の処分などによる根絶にむけた徹底防除に取り組んでいます。なお、三重県内では現在のところPPV感染植物は確認されていません。



写真 1. ウメの葉の輪紋症状 (農林水産省植物防疫所原図、無断転載禁止)

2 感染経路と宿主植物

PPVはアブラムシにより伝搬されるほか、感染した植物の苗や穂木の移動によっても広がります。一方、種子や果実から感染することはありません。

宿主植物にはウメ、モモ、スモモ、セイヨウスモモ、ネクタリン、アンズ、オウトウ等サクラ属の果樹、セイヨウマユミ、ナガバクコ、ヨウシュイボタなどがあります。

3 症状や被害について

ウメでは、葉に緑色の薄い部分がドーナツ状（輪紋症状、写真1）や斑点状に生じます。また、花卉が斑（ふ）入りになる症状（ブレーキング症状、写真2）が現れます。果実には顕著な症状は見られませんが、表面にやや凹んだ輪紋を生じることがあります。

モモやスモモでは、葉にウメと同様の症状が生じるほか、果実表面に斑紋が生じたり、早期落果するなどの被害が外国で報告されています。

4 お願い

三重県においても農林水産省植物防疫所と協力して、生産園地や観光園地でPPVの発生調査を実施しています。被害を最小限に抑えるためには、早期発見による適切な対応が重要です。調査へのご協力をよろしくお願いします。



写真 2. ウメの花のブレーキング (斑入り) 症状 (農林水産省植物防疫所原図、無断転載禁止)

三重県病害虫防除所

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報（平成 23 年 6 月 17 日 名古屋地方気象台発表）

東海地方の向こう 1 か月は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

特に、期間の前半に気温が平年よりかなり高くなるおそれがあります。

1 週目 6 月 18 日 ~ 24 日	気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 3.2 日・2.6 日
2 週目 6 月 25 日 ~ 7 月 1 日	平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。梅雨前線の活動が弱まる時期がある見込みです。	同 3.1 日・2.5 日
3~4 週目 7 月 2 日 ~ 7 月 15 日	平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。梅雨前線の活動が弱まる時期がある見込みです。	同 5.6 日・5.8 日

東海地方週間天気予報（平成 23 年 6 月 22 日 10 時 35 分 名古屋地方気象台発表）

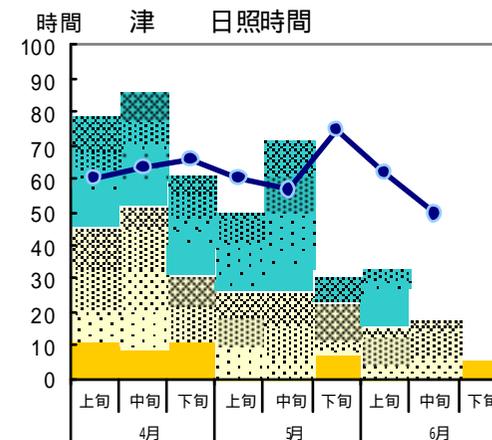
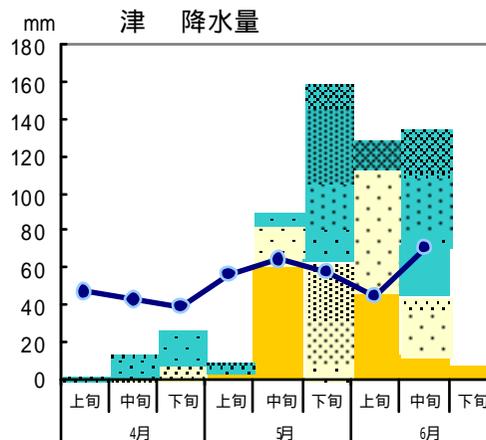
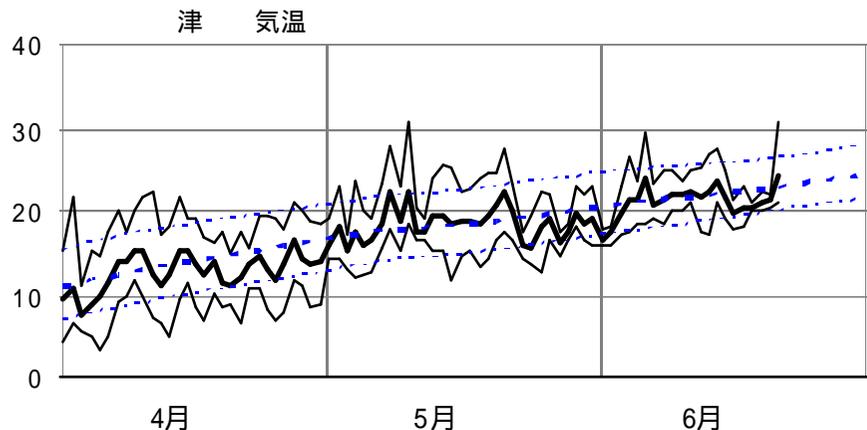
予報期間 6 月 23 日~6 月 29 日

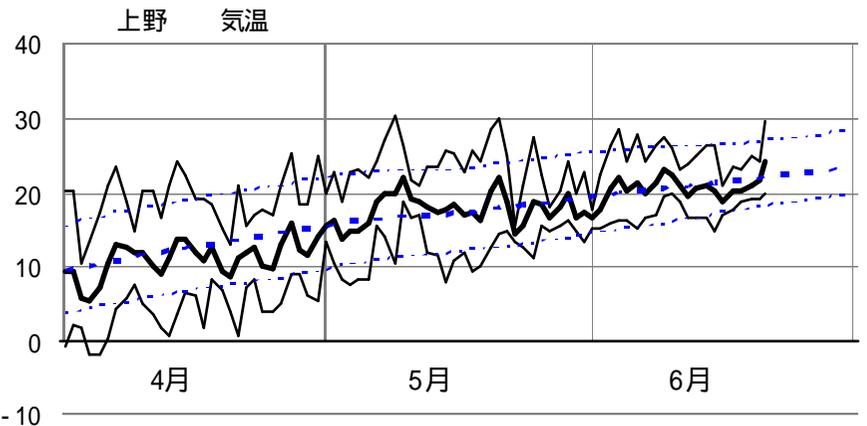
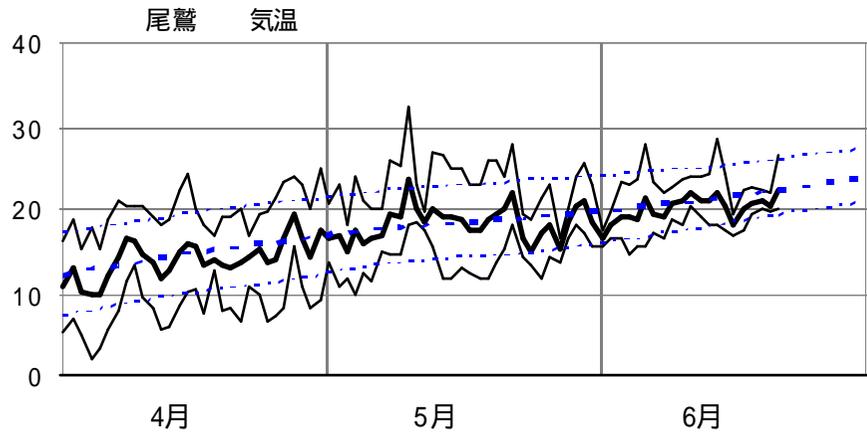
向こう一週間は、気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

最高気温は、期間の前半は平年より高く、後半は平年並の見込みです。最低気温は、平年より高く、期間の前半はかなり高い所もあるでしょう。

降水量は平年並の見込みです。

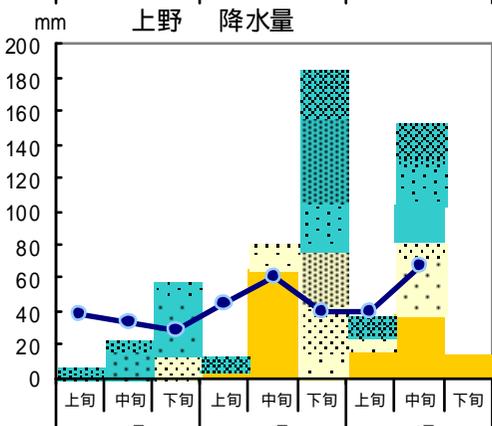
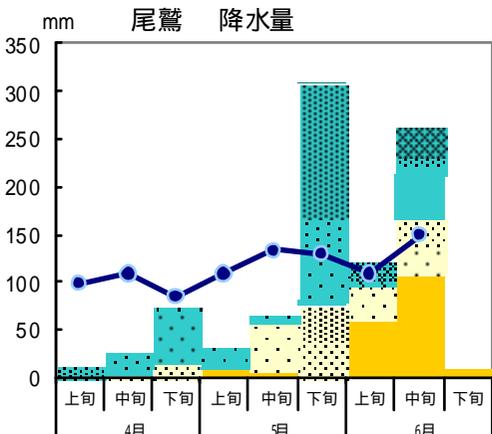
気象の日別推移（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php> から作成、5 月 18 日に平年値が変更されました）（6 月 21 日まで）





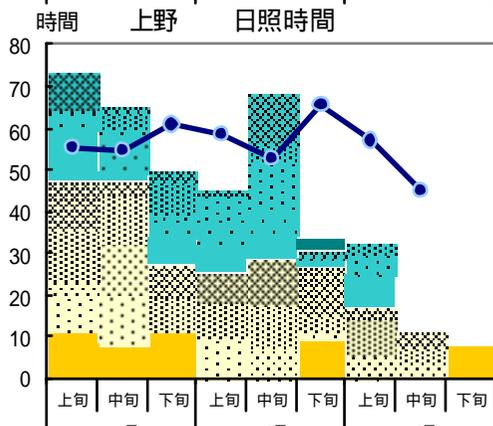
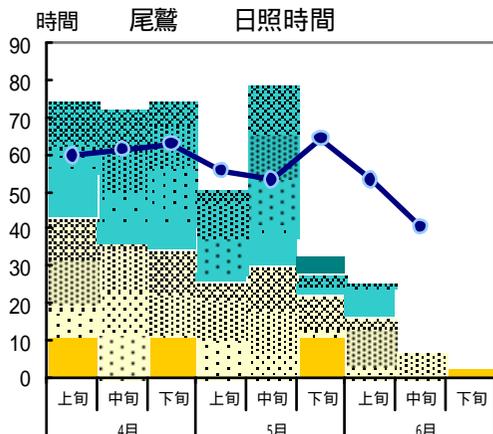
凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- · · 平年 平均
- · · 平年 最高
- · · 平年 最低



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年平均値



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年平均値

7. お知らせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月21日(済み) 第2回 5月26日(済み)
- 第3回 6月23日(今回) 第4回 7月21日(木)
- 第5回 8月18日(木) 第6回 10月20日(木)
- 第7回 3月22日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h23yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) 気象データの平年値

気象データの平年値が5月18日に更新され、1981年～2010年の30年間の平均値に変わりました。今回の変更により、全国的に平均気温が0.2～0.4程度高くなりました。